

はじめに

だれでも幸せに、よりよい毎日を過ごしたいと願っています。しかし、戦争によって大切な家族や家をうしなう人がいます。環境の変化により、消えていく動物たちがいます。差別によって、平等なあつかいをされない人たちもいます。なぜこのようなことが起きるのでしょうか？世界の国ぐには、協力してこのような問題を解決しようと、さまざまなりきめをつくりました。「平和」「環境」「人権」、わたしたちの未来を守るための条約です。

これらを知り、学ぶことで、わたしたちがこれからするべきこと、めざすべき未来が見えてくるはずです。どうしたら自分も、世界の人びとも幸せにくらせるのか。条約を糸口にして、もう一度考えてみませんか？

「国際条約」ってなに？

戦争をふせぐ。
絶滅しそうな生き物の命を守る。
地球環境を守る。
すべての人間の権利を守る。

これらのことば、
ひとつの国だけががんばっても
実現はできません。

だから、
国と国、または国と国際機関との
あいだで約束をむすんで、協力する。
それが「国際条約」です。

中央大学法学部教授

えんどうけんいちろう
遠藤研一郎



絶滅のおそれがあるサンゴ。

もくじ

はじめに 2

どうしてパンダは中国に返さないといけないの？ 4

絶滅から生き物を守れ！ ——ワシントン条約 6

湿地と水鳥を守る！ ——ラムサール条約 8

みんな、かかわりあって生きている ——生物多様性条約 10

環境を守るための国際条約① ——生物を守る 12

どうして地球環境を守らないといけないの？ 14

地球温暖化をSTOP！ ——気候変動枠組条約 16

温室効果ガスをどのくらいへらす？
——京都議定書・パリ協定 18

地球をおおうオゾン層を守る！
——ウィーン条約・モントリオール議定書 20

環境を守るための国際条約② ——海・陸地を守る 22

どうしてゴミは分別して出さないといけないの？ 24

ゴミは自分の国で処理しよう！ ——バーゼル条約 26

世界の宝物を未来に残す ——世界遺産条約 28

環境条約・年表 条約・協定・憲章・議定書のちがい 30

さくいん 31

該当するSDGs

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 11 住みつけられるまちづくりを

13 気候変動に具体的な対策を

15 陸の豊かさも守ろう

※SDGsとは、国連が、よりよい未来をつくるためにつくった17項目の目標です。

どうしてパンダは中国に 返さないといけないの?



日本でも大人気のパンダ。2023年2月には日本から中国へ4頭のパンダが返還されました。

パンダは中国のもの

パンダは地球上で中国の南西部にしか生息していない哺乳類です。そのため、国どうしのとりきめで中国が保護・管理することになっています。中国は国際的なパンダの保護プログラムをおこなっており、世界の国ぐにに期限つきでパンダを貸し出しています。

●パンダの生息地



中国南西部の四川省にあるパンダの保護区では、中国政府によって自然林の伐採が禁止されています。

※この本では、ジャイアントパンダを「パンダ」と表記しています。

絶滅するってどういうこと?

パンダは、2020年まで、絶滅があやぶまれる「絶滅危惧種」といわれる動物でした。

絶滅とは、ひとつの生き物の種が、地球上からいなくなってしまうことです。パンダは、世界じゅうの国ぐいで飼育や繁殖をおこなったことで、数をふやすことができました。地球の環境は、多くの生き物がともにくらすことで成り立っているため、絶滅する種がふえるほど、地球の環境はこわれてしまいます。

絶滅危惧種って、なに?

絶滅の危機がせまっている動植物のことを絶滅危惧種といいます。それでは、どんな動植物が絶滅危惧種とされているのでしょうか。自然環境の保護にとりくんでいる国際自然保護連合(IUCN)は、動植物の種ごとに生息数などを調べ、絶滅のおそれがある動植物のリストを作成しています。このリストを「レッドリスト」といい、IUCNはホームページなどでリストを公表しています。

IUCNが定める絶滅危惧種

IUCNのレッドリストは、絶滅の危険度ごとに9つのカテゴリーにわかれています。この9つのカテゴリーのうち、下の表の3つが絶滅危惧種とされています。

カテゴリー	意味
深刻な危機	野生での絶滅が間近にせまっている種。絶滅の危険性がとても高い。
危機	「深刻な危機」ほどではないが、絶滅の危険性が高い種。
危急	絶滅の危険性が高まっている種。

どんな動植物がどのくらい絶滅の危機にあるのか知ることは、とても大切です。これを知ることで、絶滅を防ぐためにどのような保護活動が必要かをることができます。そして、保護活動はその動植物が生息する地域だけがとりくむのではありません。たくさんの動植物がたがいにかかわりあってつくられている環境は、地域や国をこえて、たくさんの人たちが協力することによって守ることができます。

●絶滅してしまった動物たち



ニホンカワウソ



タスマニアタイガー



絶滅から生き物を守れ！

ワシントン条約

ワシントン条約の正式名称は「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約」。絶滅の危険性がある生き物を国際的に守っていくため、1973年、アメリカのワシントンに世界の81か国があつまり、むすばれた条約です。

生き物を絶滅させているのは人間なの？

生き物の歴史のなかでは、これまで数えきれないほどたくさんの種が、進化と絶滅をくり返してきました。ときには火山の噴火や隕石の衝突などで、一度に大量の種が絶滅したこともあります。しかし、こうした大きな自然災害はなかなか起こりません。

ところが近年、人間の行動によって、巨大な自然災害が起こったときと同じくらい、多くの種が絶滅しているのです。そのため現代は、「大量絶滅の時代」ともよばれています。



アツモリソウ

愛好家による採取や、生息地である草原の減少が原因となり、絶滅危惧種に。



ウミガメ

産卵場所である砂浜の環境が悪くなつたことや、乱獲が原因で、数がへつてしましました。



クロサイ

角が漢方薬の材料になるといわれ、乱獲されて、絶滅危惧種となっています。



パンダ

毛皮を目的とした乱獲や、主食である竹が不足したことなどが原因で絶滅危惧種に。保護区がもうけられました。



オランウータン

東南アジアに生息する大型類人猿。違法伐採や農地開拓で熱帯雨林がへつたため絶滅危惧種に。

国どうしのとりひきを制限

ワシントン条約がむすばれる前は、めずらしい動植物や、動物の毛皮やきばなどが制限なく売り買いされました。その結果、多くの動植物が乱獲され、数をへらしてしまったのです。

そこで、ワシントン条約では、このような動植物の乱獲をふせぎ、絶滅から守るために国家間のとりひきを制限しています。



商業目的の輸出入が禁止されているトラ
ワシントン条約では、生きている動植物だけでなく、毛皮といった体の一部や、それらを使った加工品も規制の対象となっています。

もう食べられない？ 食卓にのぼる絶滅危惧種

わたしたちが毎日の食事で口にしているもののなかにも、絶滅の危険性がある生き物がいます。たとえば、日本人の多くが大好きなクロマグロは、とりすぎによって数がへり、絶滅のおそれがある生き物になってしまいました。現在は漁獲量を制限することで、生息数が少しずつ回復しています。

種の保存にひと役

動物園や水族館の役割

動物園や水族館には、絶滅危惧種の動物たちもたくさん飼育されています。こうした生き物の展示施設には、種の保存や研究という役割があります。また、めずらしい生き物だけでなく、多様な生物を展示することによって、多くの人びとに命や自然環境に興味をもってもらうことも、大きな役割のひとつです。



絶滅危惧種のラッコ

未来も共存していくために

ワシントン条約は、動植物のとりひきをすべて禁止しているわけではありません。動植物のなかには、その国の産業をささえる大切な資源になっているものもあります。そこで、ワシントン条約では、絶滅のおそれの程度や必要とされる規制の内容によって規制の段階を分け、絶滅のおそれが少ないものなどは、条件つきでとりひきができるようにしています。ワシントン条約は、動植物が行きすぎたとりひきによって乱獲され、絶滅することをふせぎ、多くの生き物たちが共存していく未来をめざしているのです。